令和５年９月５日（火）学校祭後 中学校全校集会　あいさつ

学校祭が終わりました。８月１８日（金）の全校集会では、「生徒の皆さんもそれぞれやるべきことが数多くある。そのすべきことも行い、その上で学校祭での一人ひとりの役割も果たしていくことに期待している」とお願いしました。
そして、皆さんの期待通りの活躍で学校祭での中学校部門も大きな成功で終えることが出来て、大変嬉しく、そして誇らしく思いました。

また、８月２１日（月）に 2015 年ノーベル物理学賞受賞の梶田 隆章（かじた たかあき）先生ら著名な先生方が参加した「宇宙や自然を探求しよう」の公開シンポジウムが県立大学で行われ、55 名ほどの皆さんが参加しました。
そこでの積極的な質問とその内容から、参加されていた研究者の先生方からも「高志中はすごい」と感嘆の言葉もいただくとともに、梶田先生をはじめ多くの先生からも「高志中の生徒たちから、日本の科学の将来はまんざらでもない。期待できる。」と仰っていたとのことです。

ここで私が言いたいことは嬉しかったこともありますが、それよりも高志中生全員が大きなポテンシャルと可能性を秘めているということです
また、今回の公開シンポジウムや学校祭の活躍はそのことを如実に示しているということ、そして、皆さんの資質はもとより本校の教育方針や教育活動に理解を示し、協力して下さる保護者の方々の力が噛み合っていることだと思います。そして、私自身もこれからも生徒の皆さんがそれぞれの夢の実現に向けて進んでほしいと強く感じました。

皆さんが夢を実現するためにどうすればいいのか、そのためのヒントが梶田隆章先生の一言にあると思います。それは、ノーベル賞受賞の際に「研究者の資質で必要なことは？」という質問に対して梶田氏は「タフで、しなやかでなければならない」という言葉で答えました。皆さんはこの言葉の意味をどう考えますか。
先ず、「タフ」ですが、皆さんも考えるように「粘り強く、継続する」「挫けない」とか、「途中で投げ出さない」などの意味合いを示していると思います。
次に「しなやか」ですが、実はこれが最も深く大切な意味を持っているのではと考え、他のノーベル賞の方の有名な言葉を調べてみました。すると、同じ物理学賞の江崎玲於奈先生の「今までの行きがかりにとらわれない」という言葉を見つけました。そして、また同じ物理学賞ですが、赤﨑勇先生の「ここまで著名な活動を行ってきたのだから、もう十分かもしれない。でも、ここで終わったらただの終わり。だから、常に心にはこれが再スタートだと思ってきた」という言葉にぶつかりました。

私は「しなやかさ」とは「芯は強く、それでいて柔軟性があること」ですから、「自分の考えに固執せず、常に柔軟に他者の考えを取り入れヴァージョンアップしていく」ことと考えます。実は３年生の皆さんは、このような考えを掴みかけている状態です。それを見て取れたのが今回の学校祭の３年生の企画発表でした。「失敗とか挫折は存在しない」に類した台詞が数多くありました。これも「タフ」と「しなやかさ」に通ずると思います。

さて、それが実行できるためには最も大切な姿勢があります。それは、人からの意見に耳を傾け、それを受け入れる素直な心です。指導者で有名な方の多くが「伸びる子の一番大きな要因は素直な心」と言っています。是非、心に留めておいてください。

これから飛躍する皆さんに期待して、挨拶とします。